

り組ませました。

なにしろ雨天体操場は板敷きですから、倒されるとコツンと痛いですから、懸命に力闘し、相手にしがみつきます。女の子などは髪をバンパ、バンパに乱しての取り組みです。

その取り組みのまわりを、先生はヒラリヒラリと跳び回っては、

「それ、やれっ。負けるなっ。がんばれ。とっとと」

と声援し、勝負あると、跳びあがり、手を打って、喜びました。そのたびに、なんでも、「キャツ、キャツ」という歓声をあげたような気がします。

そのころ、村の子どもたちは、洋服などというものは着ていません。みんな着物でしたし、女の先生は、束髪という髪型に、やはり着物で、袴をはいていました。

その、「キャツ、キャツ」というような声をあげて、跳びあがって、手を打って喜ぶ先生が、なんともかわいらしく思えたものです。

先生は、女の先生でも、なんとも威厳があつて、近よりたい思いがあり、威敬していたものでしたが、体操の、この相撲の時間から、岡本先生との距離は、異常に、

急激に近接したのでした。

岡本先生は、色が黒く、いくぶん斜視で、近眼で、前にいったように、決して美人とはいえませんでした。このようにして、魅力のある先生になったことは確かでした。

そして、ある日、ひょいと見ると、先生は、教壇で、椅子に腰かけ、教卓によりかかって、居眠りしているではありませんか。ぼくたちは、「読み方」の自習をいつづつづけていたようでした。

ませたものの知りがいて、先生は、昨夜、蘇民祭に行ったんだと、ささやきました。その祭りは、となりの村の寺で、かがり火を焚

## 鈴木鎮一先生・信念にもとづく音楽教育

中嶋 嶺雄

東京外国語大学助教授

わが国には、例年三月下旬の東京において、世界に誇ることのできる素晴らしい文化的な祭典がくりひろげられている。国際化時代の日本が対外接触の領域のなかに文化外交を大きく位置づけるべきことが叫ばれているが、ともすれば、その場合の文化は、いつも生け花であり、茶道であり、といっ

き雪の夜を徹して行なわれ、子どもは行ってはいけないといわれていたものでした。

身も世もあらぬというような居眠り姿を見て、手を打って喜ぶ相撲の先生よりも、なおぐいぐいと親近する思いがしたようでした。それはたあいのない、ひとりの田舎娘の居眠りにすぎないかもしれませんが、いふならば、かいま見た無防備な天女の寝姿であったともいえないかと思えます。装わず、飾らず、構えない——こういう人間の生きざまともいうようなものを、この天女は、言葉ではなく、からだで、啓示していたような気がします。

た次第で、それはフジヤマ・ゲイシャ日本論のようなものになりがちである。だが、ヴァイオリンを手にした満場の子どもたちがきわめて高い水準において演奏する、ハヤモーツアルトの大合奏こそ、現代日本を代表する文化ではなからうか。わたしは、この春、武道館で開かれた才



それを戯画化して生徒たちに語ることで、その先生は何を狙っていたのか。「ダンナシ」などというものは、からかったり、からかわれたりするほどの、格別のものでは決してないことを、わたしたちに教えたかったのであろう。

わたしの小学時代は、昭和もまだ一ヶタの頃だから、教師にもわたしなどを「旦那衆の子」扱いする風は強かったが、その先生は、そういう分け隔てを排して、わたしに「一庶民の子」であることを教えた。

そのことは、「ダンナシの子」であるわたしの荷を軽くしてくれたし、そう扱うことの阿呆らしさに目覚めたいじめっ子たちが、素直にわたしへの友情を示せる雰囲気をもつくれた。

おそろしくのっぼで、校長の訓示を聴く生徒たちの小さな頭の波を見渡しながら、腕をうしろに組みやせたからだを運んで行きつもどりつする先生の、朝礼の場景がなつかしく胸に焼きついている。

旧制の一高に入った頃、何度かその先生に便りを出した記憶があるが、返事はなかった。もう戦争のさなかで、先生の身辺も変わっていたらうから、返事どころの事情ではなかったのかも知れない。中学時代の

戦後、教師像は大きく変わった。しかし、教育が子どもと教師との人間関係で営まれることは、今も昔も変わりはない。

半ばから故郷を離れたわたしには、その事情を知る術もなかったが、あるいは返事がないのは、一高などというエリート学校に入って得意になっている私の「ダンナシ」根性への、無言の批判かと思ったりもした。

ともかく、金力、権力、暴力等そうしたいっさいを否む心がわたしに強いのは、その先生が「ダンナシ」をゆさぶり何が本質的なものかを、微笑のうちに指さしてくれたからだと思う。

## 生徒と相撲に興ずる女先生の姿から

及川 均

詩人

小学校の一、二年生の担任は女の先生で、三年生も女の先生でした。岡本チエ先生。先生は村の旧家の娘で、決して美人ではなかったようです。町の高等女学校を卒業して、請われて、代用教員をしていたようでした。これは後から知ったことです。

雨天体操場です。二列に並んですわっていて、順に取り組んでいくのですが、あるときは大きいほうから、または小さいほうからはじめるのですが、多くは勝抜き戦のようでした。

この岡本先生は、体操の時間となると、きまって相撲をとらせるのでした。場所は

村の小学校は昔から男女共学で、女の子は男の子のあとにつづいて並んでいました。が、もちろん、岡本先生は、女の子にも取